

「人的・物的」から「心をつなぐ」支援へ



2011年3月19日の仙台市内（第1陣が撮影）

東日本大震災の発生後、「可能な限り、迅速に支援する」ことを決定し、発災直後から募金に取り組みました。そして3月17日から、現地に職員が入り、みやぎ、ふくしま両生協の支援を行いました。2011年度も、方針に「東日本大震災の被災者と被災生協に対して、支援をおこないます。また、防災・減災の取り組みをすすめます」を掲げ、総代会で確認していただき、下記のような支援に取り組みました。



第1陣の出発の様子（2011年3月17日）



第4陣の支援の様子（2011年4月5日）



共済支援。全国の仲間と共に活動



約1600世帯を訪問しました

【人的支援】計35名

	支援期間(出発～帰着)	支援先	派遣人数	内容
第1陣	3月17日～3月22日	みやぎ生協	10名	物資の仕分け・運搬、気仙沼市内ヘトラックの移動、安否確認、お見舞い活動
第2陣	3月23日～3月28日	コープふくしま	4名	店舗の営業支援
第3陣	3月26日～3月31日		4名	店舗の営業支援、支部で開催された青空市の支援
第4陣	3月31日～4月5日		4名	店舗の営業支援
第5陣	4月4日～4月9日		4名	店舗の営業支援
第6陣	4月7日～4月13日		4名	店舗の営業支援
第7陣	4月10日～4月15日		5名	店舗の営業支援
計				35名

【物資支援内訳】

物資	数量	物資	数量
水(2リットルペットボトル)	2,700本	配送用折りたたみボックス	20,000個
軽油	1,916リットル	バナナ	20ケース
インスタントカップ麺	700個	衛生用品	160枚
マスク	5,000枚	おむつ	30ケース
貼るカイロ	720枚	粉ミルク	8缶
燃料用ポリ缶	280個	ガソリン携帯用タンク	5個
消臭スプレー	150本		

【共済支援】計8名

共済に加入いただいている組合員の自宅をまわり、異常災害見舞金を給付させていただくための調査を行いました。

	支援期間(出発～帰着)	支援先	派遣人数
第1陣	4月29日～5月05日	みやぎ	2名
第2陣	5月04日～5月10日		2名
第3陣	5月09日～5月15日	生協	2名
第4陣	5月14日～5月20日		2名
計			8名

【ボランティア】計10名

生協ひろしまとしての派遣終了後は、広島県社会福祉協議会(社協)がすすめるボランティア募集と日本生協連の要請に応じ、「ボランティア」として、現地入りしました。

種類	期間	支援先	人数	内容
ひろしまボラネット	7月5日～7月7日	宮城県岩沼市	4名	側溝の泥出しなど
日本生協連	7月19日～7月23日	宮城県亶理町	2名	
日本生協連	7月24日～7月28日	宮城県亶理町	2名	
日本生協連	7月29日～8月2日	宮城県亶理町	2名	

被災者支援募金総額
(2012年3月末現在) **89,746,438円**

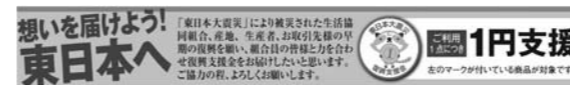
2011年度末までに集まった募金総額は上記の通りです。募金は、OCR注文書を使い、2012年3月4日まで通年で受付、店舗でも3月末まで募金箱で対応しました。

集まった募金は、関連会社やお取引先様からご協力いただいたものを含め、1千210万円を日本赤十字に寄託、その他は日本生協連に送金しました。送金後は義援金配分委員会の決定を参考にして按分。被災都道府県が設ける「義援金口座」に送金されました。

【利用1点につき1円支援企画】

想いを届けよう!東日本へ
総額 **18,699,762円**

中国・四国地区の生協が参加するコープCSネットとともに、被災された地域の生協、生産者、生産地、取引先様への支援活動として、該当商品の利用1点につき1円を支援金にまわす企画に取り組みました。



【他団体との取り組み】

【6月4日】

広島県被災者生活サポートボラネット主催の被災者交流会に協力

【組合員の取り組み】

組合員が集めた手芸用品を被災地に送付



「既成品をもらうのではなく、自分で編むことで心の癒しになる」という被災者の声を聞いた生協ひろしまの組合員が企画。使わなくなった手芸用品を生協ひろしまの組合員から集め、みやぎ、いわて両生協に送りました。後日、お礼のお手紙をいただきました。

◀2011年11月に第1便を送りました

【3月11日の店舗の取り組み】

当日の募金総額 **1,691,586円**



発災から1年後の2012年3月11日、コープのお店では、14時46分に黙とうをすると同時に、募金を呼びかけました。また、当日の供給高の1%を拠出しました。

◀組合員さん26名、役職員284名が全店で呼びかけました

【2011年4月23日・9月11日】

【2012年3月10日】

東日本エイド～復興支援コンサート～実行委員として参加



第1陣隊長
常務理事 高田 公喜

● 2011年6月に発行した支援報告書より抜粋

隊員の疲れはピークでしたが、弱音を吐く者は一人もいませんでした

私たちは、広島から2日間かけてみやぎ生協に到着。被災地に来ると「何とか役に立ちたい」という気持ちになり、隊員の疲れはピークでしたが、多少の無理は進んで「自分からやります」と言ってくれました。お見舞い活動でトラックに同乗しました。二日前に立ち入り禁止が解除された場所でした。物資を届けた時には大変喜んでいただきました。復興への道りは長く険しく、まだまだ継続した支援活動が必要な状態です。引き続き、最大限の支援を組織で取り組みます。